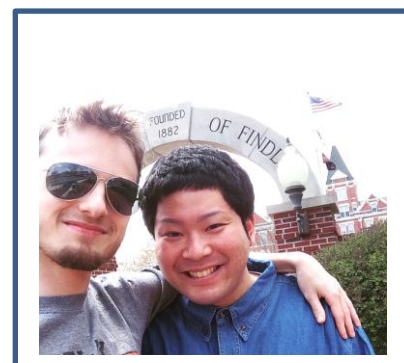


## 留学先：フィンドレー大学

氏名：加藤裕樹

(留学時：教育地域科学部 学校教育課程 4年)

留学期間：2014年8月～2015年5月(9ヶ月)



交換留学を希望した動機	アメリカという英語を使わずには生活できない特別な環境に自分の身を置くことによって、英語力を向上させるため。アメリカの教育を学び、将来自分が福井の教員になったときに活かすため。留学先の大学にいるたくさんの留学生との交流を通して、多角的な視野を身につけるため。
留学先を決めた経緯	大学に入学する前から、英語習得のために海外留学をしたいと考えていた。カナダ、タイの短期留学を経て、やはり長期で留学したいという思いが強まった。
留学先の大学について (特徴や紹介したい特色)	オハイオ州のフィンドレー市にある私立大学。学生は約4000人。世界各国からの留学生も多い。教育学部は、地域の小中学校、高等学校との連携が強く、地域連携した教育環境がある。
留学先で履修した科目や学習等	<ul style="list-style-type: none"><li>● TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) 他言語話者に対する英語教授法</li><li>● Phonics (教育学部)</li><li>● Emergent Literacy (教育学部)</li><li>● Elementary Spanish (スペイン語)</li><li>● Writing (英語ライティング) など</li></ul>
あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージ	交換留学は、自分の人生においても大きな経験になるし、自信にもなります。9ヶ月の留学生活は、今まで生きてきた中で、一番濃厚な時間でした。日本でできない経験をするだけでなく、自分の将来や自分自身のことを見つめ直す素晴らしい時間になりました。思い立ったらすぐ行動！ぜひ、皆さんも海外に飛びたってください！

### 【交換留学の成果について】

#### ①交換留学を希望した動機を踏まえた成果を得ることができたか

概ね成果を得ることができました。教育学部の授業を取ることにとり、自分と同じ志を持つアメリカ人の友達がたくさんできました。また、日本語学科のアメリカ人学生とも仲良くなりました。彼らとの会話の中で、自分の英語力が向上したように思います。まだ帰国後には、TOEIC等の英語能力の試験は受けていませんが、今後受けていきたいと思っています。

また、アメリカの教育を学ぶという点で、数々の小学校を訪問しボランティアをしました。さらに、教育学部の授業をとり、実際に子どもたちに教えたことにより、自分が期待していた以上の学びがありました。

そして、他の国からの留学生との交流もたくさんすることができました。留学生向けのライティングの授業を1つとっていたり、留学生が主体的に行っているイベントに参加したりすることにより、たくさんの留学生の友達もできました。



写真左-小学校にて日本語の絵本の読み聞かせ

写真中-卒業式にて教育学部の友達と

写真右-小学校で先生をしている友達と

## ②自身が設定した目標を達成できたか

主に、英語面、教育面、人間性の3本柱での目標を、留学前に立てました。

英語面に関しては、自分で感じられるほど、伸びを感じました。先日タイで仲良くなったタイ人の友達にも会いましたが、彼からも英語がうまくなったと言われました。これからTOEICを受けて、スコアとしてどれだけ伸びたかを確認めたいです。

教育面は自分の目標以上のことができました。教育系の授業を受けているときも、自分が福井で先生になったときに、今学んでいるこのことをどう活かしていくかということを中心に考えてきました。先生になったときにアメリカで学んだことを自分の学級に取り入れるのがとても楽しみです。

人間性については、この留学中にたくさんの人との会話を通して養っていけました。教育学部の学生はもちろん、それ以外の学生とも話しました。また、実際に小学校2年生の担任をしている先生とも友達になり、たくさんの経験談を聞くことができました。さらに、もう定年退職をした老夫婦の友達もでき、週に1回あって、会話を楽しみました。

## ③留学先での学業を通して学んだこと

私は教育系の授業をとったため、ディスカッションなどの言語活動を重視した授業が多かったです。1対1のペアで行うディスカッションだと、非母国語話者の私もたくさん話せました。例えば私と3人のアメリカ人などのグループディスカッションだと、なかなか発言できずに、聞き手に回ってしまうことが最初は多々ありました。しかし、月日が経つごとにこ

のスタイルにも慣れていき、積極性が身についてきたと思います。

そして、協働して学ぶことの大切さも学びました。もちろん、一人で必死に教科書を読まなければならないときも多々ありましたが、同じ授業をとっている人、またときには同じ授業をとっていない人とも一緒に勉強することが多々ありました。授業中だけでなく、授業後に勉強するときも、人とともに学ぶことで、自分の考えもしなかったことに気づけることも多々ありました。

#### ④留学先での生活を通して学んだこと

授業や教育的活動以外で毎週やってきたこととして、City Mission でのボランティアがあります。ここは、ホームレスや所得の低い人たちが無償でランチとディナーを食べることができます。ここの食べ物はほとんど地域の人たちの寄付です。私はそこで、料理を運ぶボランティアをしていました。日本では寄付というと大それたことに聞こえますが、アメリカではそれが普通に行われていました。その寄付がホームレスや働かない人を増やしているとの声もありますが、日本とは全く違う文化を毎週感じていました。

#### ⑤留学前に期待した以上にできたこととその理由

最も期待以上だったのが、本当にたくさんの子どもの関わりを持てたということです。小学校での低学年支援のボランティア、小学校での絵本の読み聞かせ、地域の小学生向けの日本語の授業など、たくさんの教育的活動をしてきました。その中で、最も自分の中で大きかったのが、CLUBHOUSE です。教育学部の授業なのですが、実際にリーディングの苦手なアメリカ人の子どもたちにチューターをするという実践的な授業です。アメリカ人向けの授業で、この授業をとった留学生は私が初めてでした。私は、2年生2人と3年生1人を受け持ちました。毎週、指導案を書き、先生に添削してもらい、何度も直しました。授業ではかなり失敗もしましたが、日本では絶対にするのできない、貴重な経験を留学生としてさせていただきました。

この授業を取ることができたのは、教育学部の教授であるベア先生のおかげです。1学期目にたまたまベア先生の授業をとったため、この授業に誘っていただきました。ベア先生に知り合えて本当にラッキーでした。そして、このつながりをこれからも大切にしていきます。



写真-CLUBHOUSE で授業をしている様子

#### ⑥留学前・留学中に期待していたもののできなかったこととその理由

留学前は、アメリカにいる間にたくさん旅行をしたいと思っていました。しかし、思ったよりも大学生活が忙しく、思ったほどたくさん旅行に行けませんでした。それは次にアメリカに行くときの楽しみとしてとっておきたいと思います。

#### ⑦交換留学での経験を踏まえて、学業やキャリアにおける今後の目標

9ヶ月の留學生活のなかでたくさんの人と話し、大学院の進学も考えるようになってきました。まだ自分のなかで整理はできていませんが、もし大学院に進むのなら、英語圏の大学院で言語学、そのなかでも英語言語学を学びたいと思います。しかし、福井県で小学校の先生をして早期英語教育に貢献したいという思いは常にあります。どちらの道に進むかはまだ決めかねていますが、とりあえず今は教員採用試験の勉強に励んでいるところです。